

# 地域と共に育つカリキュラム

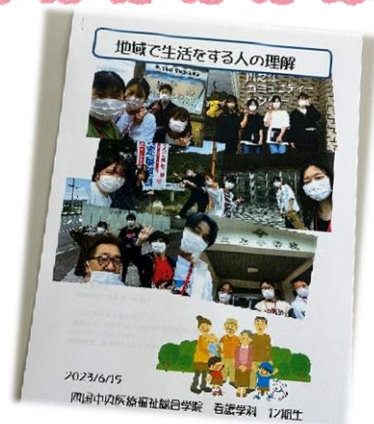
カテゴリー：④連携（地域・多職種等）

学校概要：学校法人RWFグループ

四国中央医療福祉総合学院 看護学科

所在地：愛媛県四国中央市中之庄町1684-3

課程名：3年課程 1学年定員数：40名 就業年限：3年



## 内容

地域の人と共に学び、成長するために1年次前期に「地域で生活をする人の理解」の科目の中で、まず、学校が設置されている四国中央市を理解することが必要と感じ、四国中央市役所の方に四国中央市の概要の講義をお願いしている。その後、四国中央市で生活する人とその人たちの健康問題についてフィールドワークを行いグループごとに発表した。

四国中央市には4つの地区があり、その中で**伊予三島**、**川之江**、**土居**の3つの地区に絞り、健康問題についてインタビューをし、核家族・高齢者の生活に関連する施設の役割について調査を行った。施設等にアポイントを取り、インタビューする中で、電話対応の方法やコミュニケーション方法など接遇についても学んでいる。地域の方も協力できるならとインタビューに答えてくださり、四国中央市の魅力と課題、健康問題について考える機会を提供してくださっている。フィールドワークのまとめ発表会には四国中央市の政策部政策推進課の方からご講評をいただいている。



「地域の生活を支える実習Ⅰ」は、四国中央市の山間部にある4つめの**新宮**地区に行き、茶摘み体験をすることで地域の生活を理解し、地域の方にインタビューすることで生活の不便さや健康問題を考える機会になっている。学生たちが摘んだ茶葉は新宮名物の霧の森大福や新宮茶となる予定である。また、新宮診療所の見学や説明から過疎地域の医療体制の実際や課題・健康問題・地域に対する地域愛を感じる機会になり、地域の人に育てられ、共に健康問題を考えていく時間になっている。その他にこの実習では高齢者とはスポーツで、障害者施設ではレクリエーションを行うことで交流し、多様な対象理解と対応方法についても学んでいる。

実習は、怖い、つらいというイメージを払拭し、自らの学びの多い学習内容ができ、学生からも実習いくのが楽しいと感じる実習が行われている。

(所感・学科長 今田良子)

地域・在宅看護論の科目が創設され、地域の人と触れ合う機会が増え、フィールドワークや実習の中で地域の方の“地域愛”を感じる場面が多くみられた。地域で生活する人を理解することは地域を知り、地域を肌で感じ、体験することから始まると考える。このような機会は、学生生活でしかなかなか得られるものではない。本学院は、その体験を通じて学生の成長も感じられるカリキュラムで学べるため、机上の学習だけではなく、人間力の向上にもつながっていると自負している。